



## 10月17日は月が最大！

なぜ、月の見かけの大きさは変わるのでしょうか？もちろん、月そのものの大きさは変わりませんが、地球から月までの距離が変わるため、月の見かけの大きさも変わって見えます。

月は地球の周りを回る「衛星」です。その通り

道(軌道)は、円ではなく、少しつぶれた楕円です。そのため、地球から月までの距離の平均は、実際は36万kmから40万kmの間で変化します。わずかな違いですが、この距離が近ければ月は大きく、遠ければ小さく見える、というわけです。

今年の満月は12回あります。その年の中で、一番地球に近い所で迎える満月を、「スーパームーン」と呼ぶことがあります。今年は10月17日の満月がそれにあたります。一方、その年の中で、一番地球から遠い所で迎える満月は「ミニマムーン」とも呼ばれ、満月の見かけの大きさは1年で最も小さくなります。その時に比べると、今年の「スーパームーン」の見かけの大きさは約14%大きく、3割ほど明るく見えます。

秋は大気が澄んで、月や星も見やすい季節です。満月が見えたら、月の表面の模様にも注目してみましょう。ウサギやカニ、女性の横顔など、色んなものを想像することができます。今年一番大きな満月、スーパームーンを見逃さないようにしましょう！



今年の満月の距離のちがい

提供：国立天文台